



フィリピン 秀明自然農法モデルファーム

サンバレス州 イバ

フィリピンは7100余りの島々から成り立っている美しい島国です。ルソン島に首都マニラがあり、マニラから車で5時間ほど北に行くとサンバレス州の州都イバがあります。

2001年 NGO TRD movement (総合地域開発運動)は地域に密着した農業支援を行うことを目的とし設立され、良きパートナーを探していました。そして、2003年4月、めぐり逢ったのがShumeiでした。

豊かな自然と心を
取りもどす持続可能な
農業の実践

ShumeiとTRDは、フィリピン・サンバレス州イバに、秀明自然農法によるモデル農場を作りあげました。秀明自然農法の概念では、農家は今まで化学肥料に頼っていた考えを180度転換し、自然の力を信じる心を再生すること、自然の力によって健康な生活が営めることを強調しています。このモデル農場「秀明ファーム」を通して、豊かな自然と心を取りもどす持続可能な農家の実践が証明されています。



2004年2月 秀明ファーム予定地の風景



IBA
MANILA

Philippines

Republic of the Philippines

【フィリピン共和国】

東南アジアの7100あまりからなる島国。日本の8割ほどの面積に約8300万人が暮らす。16世紀にスペイン領、西南戦争後アメリカ領、1946年フィリピン共和国として独立。マレー系の民族が95%、ローマ・カトリックが80%を占める。公用語は英語とフィリピン語。プランテーション農業が続いており農村地帯に住む半数は最貧困。美しい自然を資源とした観光業も盛んである。



パートナーシップ期間更新の調印の様子。(左は出口公一理事)

TRD理事長 ソーナ・ロイ氏

Shumeiはパートナーとしてパーフェクトだと確信しました。Shumeiの理念には生きる目的を感じます。秀明ファームに入るたびに、私の心に何かが響くのです。そこで働いている人々と植物の共生。清らかな波動、幸福のハーモニーを感じるのです。植物は生き生きと生長し、人々は和やかに勤勉に働き、その調和は卓越しています。この状態に“幸福”の結晶を見出しています。

始まり

TRDとShumeiの出会いは、2003年4月フィリピン国際会議場で行われた「アーステイ」という地球を愛する人たちが集うイベントでした。この会場でTRDの副理事であったデニス・テベスは、Shumeiのメンバーと知り合いました。テベスは、「今まで多くのオーガニック農家を見てきたけれど、美のある農場はなかった。自分の求めている農業がここにある」と感じました。訪問と会合を重ねた後、私たちはパートナーシップを結びました。

それから3年が経ちまし

たが、計画は感動的な現実となっています。TRD内の秀明ファームは、「典型的なフィリピンの大家族が、1ヘクタールの土地で自立していくためのデモンストレーション農場」となっています。これが、自然農法を学びに訪ねてきた何百という農民たちの最も魅力を感じている点です。

フィリピンにおける農業の現状

フィリピンは、自然豊かな美しい島々でできています。もともとは食物、自然の豊かなところでしたが、過去数百年に及ぶスペインの植民地支



配下におかれ、単一作物の集約農業になったことで生態系のバランスが失われ、地元農家は貧しい人々が増えていきました。そこで、1970年代

初頭に先進国から“緑の革命”（※注1）計画が導入されました。救済を目的とした“緑の革命”でしたが、フィリピンの農業において、深刻な取り返しのつかない損害を与えることになりました。

反収は一時的には増加したものの、30年以上化学肥料を徹底的に使用した結果、土地は本来の力を失い、収量

は横ばいから低下傾向になっています。品種も、フィリピン在来種からハイブリッド種に移行してしまいました。現代の農民たちは、満足のいく収穫を得るため土ではなく化学肥料に頼り、命を与えてくれる水ではなく、殺虫剤に頼ってきました。長年にわたる慣行農法の結果、肥料・殺虫剤はどんどん値上がりし、農民の手の届かない額になっています。肥料の高騰ほどには、農業生産物の値段は上がっていません。しかし殆どの農民は、化学肥料を使わなければ収穫が増産されないと思っ込んでいます。



カンデリヤ地区 樹齢100年のマンゴーの木

※注1／“緑の革命”は、ハイブリッド種と化学肥料と殺虫剤を使用することで、農業生産を増やすことを目的としていました。

フィリピン 秀明自然農法モデルファーム



パパイヤの収穫



ファームツアー



小学校でのセミナー

実体験やモデルの提示なくして彼らの心を動かすことはできません。

そこで、これに答えてくれたのがイバの秀明ファームでした。自然な農法が成り立つことが目の前に立証されているのです。フィリピン中の各地から来た農民たちが、このモデル農場を絶賛しています。秀明ファームの魅力は、農民にとっただけではありません。テンプルヒル・インターナショナルスクールからは、小学校、高校の生徒たちが秀明ファームでの体験から恩恵を受けています。

自然堆肥の作り方を勉強し、実際にパイナップル、マロンガイ、ハーブ、バナナやパパイヤを植える体験、稲刈りの体験もしました。

これらの体験は、教育の域を超えています。豊かな都会生活を送る一方で、自然と植物がどう関わっているのかすら知らない生徒たちの目を、見開かせたのです。彼らは、自然界の他の生物と自分との関係を見出し、自然を発見することへの喜びを感じたのです。

美は本質的な特徴

秀明ファームは、TRDで絶大な成功を収めています。それは栽培方法がただ単に自然尊重というだけではなく、そのデザインにおいても言えることです。室田禮治さんはShumeiで40年近く秀明自然農法の発展に貢献してきました。その彼がリーダーシップを発揮し、たった2年間で秀明ファームのデザインはもろろん、可能な限りのすべてのことを成し遂げたのです。

そして、秀明ファームのデザインの傍ら、TRDの役員、スタッフたちに何回も会い、気候、作物、雑草における地域の特有性を調査していました。地元の人からもアドバイスを受け、イバの環境(土壌)を最大限に生かした農場を目指しました。稲、とうもろこし、キャッサバ、サツマイモ、バナナ、パパイヤ、パイナップル、加えてナス、トマト、オクラ、モンゴロ豆、カンコン豆等々の様々な野菜が育てられています。木々は、防風林として、また日陰をつくるために植えられています。害虫を寄せ付けません。



自然農法のもの食べると、その味、匂い、手触り、色合いに、これが本当の自然なのだ気付きます。

—ボン・モングリックモント

自然農法に切り替えれば、土を守ってあげられます。

—リサル・バサ

自然な食べ物の重要性を若い生徒たちにも知らせてあげたいと思っています。

—イメルダ・サディワ(学校教師)

樹木として、アカシア・アウリ、アカシア・マンギン、イビル・イビル、カカワテ、ニムや松の木が植えられています。果樹としては、カシユー、マンゴーやヤシがあります。

特に「美」は、秀明ファームの本質的特徴の一つとなっています。秀明ファームのデザインを見ると、すべての植物、作物がお互い共生関係にあるばかりか、真に芸術的なのです。圃場の周りは、ハイビスカス、ブーゲンビリア、ピーナツ草、サンタン等で装飾され、鮮やかな色合いで農場を美しく輝かせています。

自然農法モデルの普及

現在TRDの50人の農民メンバーが、自分の田畑で自然農法に取り組んでいます。自然な食物への意識は高まっております。自然農法へ切り替える時期が来ています。

TRDでは「自然農法の会」を設立しました。現在千人以上いるTRDの農民会員た

ちへ推進しています。会員の自然農法実施率10%を当面の目標にしています。フィリピンにおける持続可能な道として、自然農法を人々に知らしめていくことでしよう。

農業は大自然との絆

1991年のピナツポ火山の噴火は、今まで私たちが送っていた不自然な生活への、自然からの警告だと思わずにはおれません。

私たちは、噴火によって覚醒しました。大自然の恵みに立ち返る必要があるのです。地域のNGOなどが集まり、被害に立ち向かって助け合うようになりました。後に貧困の撲滅を目指し、皆が一体となって、地域総合開発団体としてTRDが作られました。TRDは、避難民を救済する必要に迫られ生まれたのです。現在は、食物と仕事の確保を目指し、持続的な協同組合を基盤とする自立した経済体制を作るために、

地域経済の再生計画を立てています。

TRDとShumeiは、持続可能な新しい未来を作ろうとしています。この持続可能な未来とは、精神性の再生、つまり人と自然——人と植物、人と動物、人と人——との関係を再考察していこうというものです。

私たちは世界平和への旅を始めたばかりです。愛こそが、永遠なる幸せへの道を光で照らしています。秀明自然

農法を通して、私たちは世界に、母なる地球への愛と思いを伝えていきます。

Shumeiから「農業は経済的活動のみではない」ことを知らされました。それは芸術表現であり、精神性の修養であり、大地と聖なる創造主との絆を強めてくれるものなのです。



2006年5月 秀明ファームの様子